

「ギデオンは治められなかった。」 士師記 8 章 22～28 節

ギデオンは、「三百人を三隊に分け、全員の手に角笛と空の壺を持せ、その壺の中にたいまつを入れさせて」「全陣営を囲んで角笛を吹き鳴らし、『主のため、ギデオンのため』と言わなければならない。」（士師記 7・16-18）と命じました。戦闘は勇気と気力が大事です。勝ち戦の時に、逡巡（ためらって直ぐに行動しないこと）は、愚かであって、戦い続けることが大事です。敵を追いかけ続け、12万人を倒し、さらに残りの1万5千人をも（8・26）追いかけて、二人の王を捕らえました。追撃の途中、スコテとペヌエルの町に食糧を求めますが、断られます。同民族が敵と戦っているのに、支援しない、という行動を取ります。人々は勝ち馬に乗ろうとするのです。この前の選挙みたいですね。戦に勝つて帰るとギデオンは、協力しなかったスコテの町長老たち77人を茨や棘で鞭打ちます。また、ペヌエルのやぐらを壊して、人々を殺します。「国はギデオンの時代、四十年の間、穏やかであった。」（8・28）。

当時のイスラエル社会は、ヨシユアの死後、部族単位の共同生活がなされていきました。しばしば理想とされる共有共同社会は、外からの攻撃には弱く、強力な指導者がいない故に、結びつきが保たれないことがあります。武者小路実篤が唱えた「新しき村」活動は、1918年に始まり、最盛期で60名、今は殆ど崩壊しています。これは毛沢東にも影響を与えましたが、理念的作爲的な社会構築は続かないものです。

ギデオンは、「幸せな晩年を過して死」（32）んだのですが、人々は、「周囲のすべての敵の手から救い出してくださった彼らの神、主を、心に留めなかった。・・・ギデオンがイスラエルのために尽くしたあらゆる善意にふさわしい誠意を、彼の家族に対して尽くさなかった。」（34・35）。つまり、国が荒れており、信仰も形骸化していたのです。

私には、ギデオンが先週お話ししたように、表面的には弱虫であり、慎重な人間であったのは、社会のこのような風潮が背景にあると思います。それは、現代日本も同様であります。

2024年10月の衆議院選挙で自民党が247議席から191議席におちたのが、その1年4か月後の選挙で、316議席を取りました。国民に信念がなく、自分勝手な打算に左右されている証拠です。

信仰者は、神を信じて誠実に生きなければなりません。人生は、神から与えられた資質を増やし、神にある働きをするためのものです。1ミナを十ミナにした僕には、「十の町を支配する者に」5ミナにした僕には「五つの町を治めなさい。」（ルカ19・17,19）と約束しました。

また、「執事は一人の妻の夫であって、子どもと家庭をよく治める人でなければなりません。」（Ⅰテモテ3・2）とあるように、家庭を治めることが必要です。ギデオンには「大勢の妻がいた」（30）ので、息子は70人もいました。それで、側女の子アビメレクが他の70人の兄弟を殺して王となりました。しかし、結局のところ、「神は、アビメレクが兄弟七十人を殺して自分の父に行った、その悪の報いを彼に返された。神はまた、シェケムの人々のすべての悪の報いを彼らの頭上に返された。エルバアルの子ヨタムののろいが彼らに臨んだ。」（士師記9・56,57）

昔は幼児の死亡率が高いとか、男性の数が少ないとか、女性が一人で暮らしていくのは難しいとか、社会的に一夫多妻制を擁護する考え方があります。しかし、アブラハムはサラによってイサクを、イサクはリベカによってヤコブを与えられました。未亡人ナオミは、嫁のルツによってダビデの先祖となったのです。

危機や困難による正当化が、信仰を歪めています。特に日本は、原則のない国で、信仰も正義も、打算によって変えられています。外国に行けば、日曜に営業している店は稀で、夜遅くまで営業している商店もあります。そして、クリスチャンは日曜礼拝を守り、他の宗教も厳密に戒律を守ります。

「治める」ということは、自分の人生を聖書的に生きられるように調整し、配慮することです。私はギデオンを勇者とは思えません。神が「力ある勇士よ、主があなたと共におられる。」（士師記6・12）と言われたのは、「イスラエルには王がなく、それぞれが自分の目に良いと見えることを行っていた。」（21・25）という状況の中で、艱難が起こり、「すると、イスラエルの子らは主に叫び求めた。」（士師記3・9、3・15、4・3、6・7）ということでの神が選んだ勇士なのでしよう。

しかし、イエス様の教えと、神の国では、そのような一過性の勝利は相応しくなく、教えに沿った「私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。」（Ⅱテモテ4・8）という生き方こそが求められていると思います。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讃美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讃美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

【新改訳 2017】

士師記 8:22 イスラエル人はギデオンに言った。「あなたも、あなたの子も、あなたの孫も、私たちを治めてください。あなたが私たちをミディアン人の手から救ったのですから。」

8:23 しかしギデオンは彼らに言った。「私はあなたがたを治めません。また、私の息子も治めません。」

【主】があなたがたを治められます。」

8:24 ギデオンはまた彼らに言った。「あなたがたに一つお願いしたい。各自の分捕り物の耳輪を私に下さい。」殺された者たちはイシュマエル人で、金の耳輪をつけていた。

8:25 彼らは「もちろん差し上げます」と答えて、上着を広げ、各自がその分捕り物の耳輪をその中に投げ込んだ。

8:26 ギデオンが求めた金の耳輪の重さは、金千七百シェケルであった。このほかに、三日月形の飾りや、耳飾りや、ミディアンの王たちの着ていた赤紫の衣、またほかに、彼らのらくだの首に掛けてあった首飾りなどもあった。

8:27 ギデオンは、それでエポデを一つ作り、彼の町オフラにそれを置いた。イスラエルはみなそれを慕って、そこで淫行を行った。それはギデオンとその一族にとって罠となった。

8:28 こうしてミディアン人はイスラエル人の前に屈服させられ、二度とその頭を上げなかった。国はギデオンの時代、四十年の間、穏やかであった。

【NKJV】 Jdg 8:22 Then the men of Israel said to Gideon, "Rule over us, both you and your son, and your grandson also; for you have delivered us from the hand of Midian."

8:23 But Gideon said to them, "I will not rule over you, nor shall my son rule over you; the Lord shall rule over you."

8:24 Then Gideon said to them, "I would like to make a request of you, that each of you would give me the earrings from his plunder." For they had gold earrings, because they were Ishmaelites.

8:25 So they answered, "We will gladly give them." And they spread out a garment, and each man threw into it the earrings from his plunder.

8:26 Now the weight of the gold earrings that he requested was one thousand seven hundred shekels of gold, besides the crescent ornaments, pendants, and purple robes which were on the kings of Midian, and besides the chains that were around their camels' necks.

8:27 Then Gideon made it into an ephod and set it up in his city, Ophrah. And all Israel played the harlot with it there. It became a snare to Gideon and to his house.

8:28 Thus Midian was subdued before the children of Israel, so that they lifted their heads no more. And the country was quiet for forty years in the days of Gideon.